

令和 5 年 9 月 26 日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名称…サンキ・ウエルビィ グループホーム秋鹿・小規模多機能センター秋鹿

サービス種類…認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護

会議開催日…令和 5 年 9 月 26 日

開催場所…サンキ・ウエルビィ秋鹿

出席者

事業所	4 人	利用者	人
利用者家族	3 人	地域代表者	人
松江市職員	人	包括支援センター	1 人
知見を有する者	人	その他 ()	人

議事

活動状況報告

- ・小規模多機能センター・グループホームの現状報告、行事、様子報告
- ・身体拘束適正化委員会

身体拘束はなぜ問題なのか

基本を振り返り、様々な弊害や拘束による悪循環について学ぶ。

身体拘束について家族の声を知り、ケア方法を考える。

議題

- ・小規模のロングと泊りの違いはなにか。
 - ロングは自宅での生活が難しい方の対応を行っている。週に 1 回程度は日中自宅に戻りご家族と過ごして頂いている。
 - 泊りはご家族の都合での対応で急な病気や用事での対応も行っている。
- ・行事について
 - コロナからなかなか大きな行事は行えなくなっていたが、来月の運動会や 6 月には BBQ を行った。利用者さまに楽しんでいただける物を考えている。
- ・グループホーム身体拘束適正化委員
 - 拘束と安全の境は難しい。また転んで骨折をしたら…と考える。
 - 拘束を行っているから安全ではない。転倒のリスクは誰にでもあるので、その方に合わせて対策や検討を行っている。
 - 家族の立場になると意見が言えなくなることもあると思う。
 - 一時的に必要な場面もあるかもしれない。しっかりご家族とはお話し拘束が当たり前にならないように対応していきたい。

意見交換

- ・自宅では徘徊で居なくなったことがあった。ここで迷惑をかけていないか。

→現在、出て行かれるような行動はありません。皆さん外に出ようとされることがある時は、見守り、小規模や事務所へ連絡し対応出来ている。

玄関にチャイムもあるため、気を付けている。

- ・居室では天井と壁しか見るもんがないと言うことがある。何か居室に必要か。

→ご本人が希望されるときは居室で休まれているが、基本ホールで過ごされることが多い。寝てばかりの事もあるのが、利用者さま1人1人に合わせた対応を行っている。

- ・スタッフの対応が良い雰囲気電話も掛けやすいし、面会にも来やすい。感謝している。

- ・コロナが5類に代わり施設でコロナが発生した際の対応は。

→利用者さま、職員とも現在は大丈夫です。職員の同居家族のコロナ陽性時には5日間の休みをとり対応している。

去年、小規模、GHともクラスターを経験しているので、早期の対応、対応方法は理解できており、まずは持ち込まない事に気を付けている。

インフルエンザ、コロナともワクチン接種は予定している。

※事業所確認欄

<input type="checkbox"/> 活動報告についての評価を受けることができたか。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 要望・助言等受ける機会を設けたか。	<input type="radio"/>